

学業におけるAI活用に関する意識調査

～生成AIの活用に懸念も多い一方で、活用方法次第でサポートツールとしても期待できる結果に～

e-ラーニングに関するサービスの様々なコンテンツを提供する株式会社イー・ラーニング研究所（代表取締役：吉田智雄、本社：大阪府吹田市 以下、イー・ラーニング研究所）は「学業におけるAI活用」についての意識調査を実施いたしました。（クロス・マーケティング・グループQiQUMOを使用）

調査の結果、生成AIについて知っている人が約半数を占めているのに対し、学業における生成AI活用状況は、普及率が低いということがわかりました。

学業に生成AIを活用することによるメリットよりも”デメリット”を感じている人が多いことが背景として挙げられました。

しかし、デメリットを懸念する意見も多い一方で、使い方次第では学習サポートとして機能する「期待」の意見も多いため、今一度AI活用方法を考える必要があるようです。

【「学業におけるAI活用に関する意識調査」概要】

調査方法 : クロス・マーケティング・グループ QiQUMOを使用

調査期間 : 4月18日(金)～4月21日(月)

調査対象 : 全国の男女

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「イー・ラーニング研究所調べ」と明記してください

【調査結果概要】

1. 生成AIに関して、約半数が「知っている」という結果が判明。一方で実際に学業に取り入れている人は14.2%と、活用には至っていない人が多数。
2. 学業にAIを活用することについては、約6割がネガティブな意見を持っており、活用方法としては「調べもの」が主流で、より応用的にAIを活用している人も少なく学業におけるAIの活用は、まだ普及しきれていないことが判明
3. 学業におけるAI活用のメリット・デメリットに対する意見としては、デメリットの選択肢は意見が別れるなど懸念点が散見しており、今度の学業におけるAI活用方法を考える必要がある結果となった。
4. 学業におけるAI活用が普及することで、特に評価や重視される項目が変化するという意見が多いだけでなく、「教育格差の低減」への貢献を期待する意見が多いことが判明した。

1. 生成AIに関して、約半数が「知っている」という結果が判明。一方で実際に学業に取り入れている人は14.2%と、活用には至っていない人が多数。

「生成AIをご存知ですか？(単一回答)」という質問に対しては、

「よく知っている」 (15.5%)

「少し知っている」 (30.9%)

「あまりよく知らない」 (33.3%)

「全く知らない」 (20.3%)

となり、生成AIについて知っている人が約半数であることが判明しました。

また、「学業にAIを使った経験はありますか？(単一回答)」と質問したところ

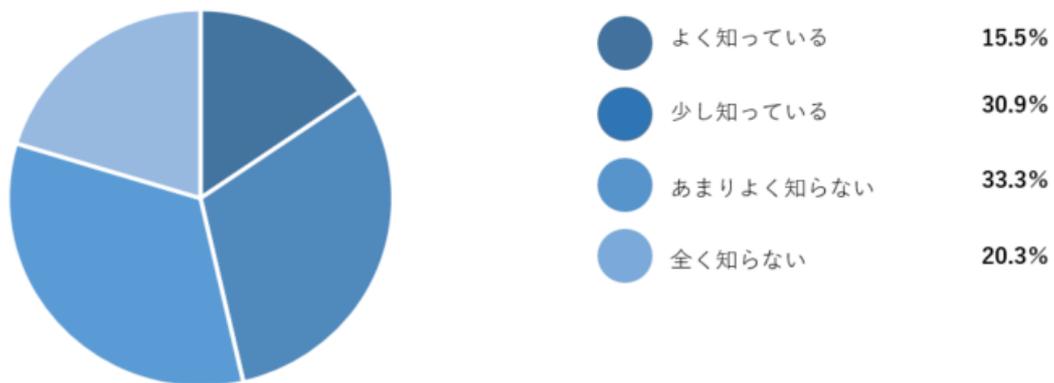
「ある」 (14.2%)

「ない」 (85.8%)

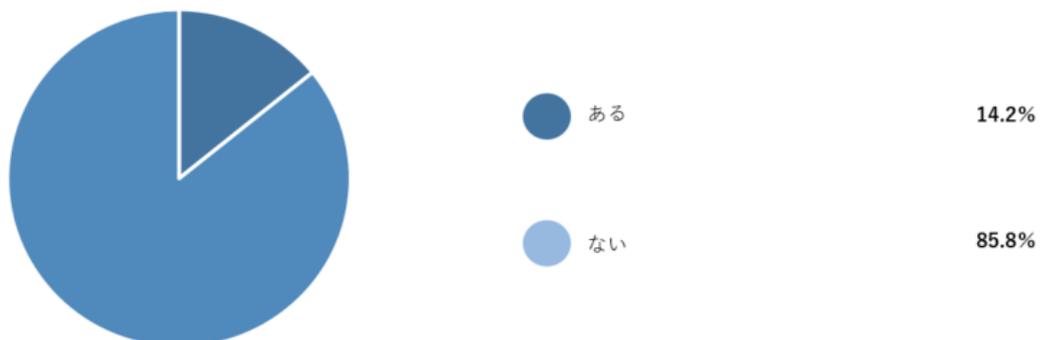
となり、生成AIについて「知っている」人が約半数であったのに対し、

実際に学業にAIを取り入れている人は14.2%とAIに対する認知と活用には乖離があるようです。

生成AIをご存知ですか？



学業にAIを使った経験はありますか？



2. 学業にAIを活用することについては、約6割がネガティブな意見を持っており活用方法としては「調べもの」が主流で、より応用的にAIを活用している人も少なく学業におけるAIの活用は、まだ普及しきれていないことが判明

「学業にAIを活用することについてどう思いますか？（複数選択可）」

という質問に対しては、

「使いすぎが心配」 (25.5%)

「あまり良いとは思わない」 (29.2%)

となり、ネガティブな意見を持つ人が約6割と、学業にAIを活用することについて前向きな意見がある反面、懸念を抱いている人が多くいるという現状が判明。

「学業においてAIを使う／使いたいと思う場面を教えてください。（複数選択可）」

という質問に対しては、

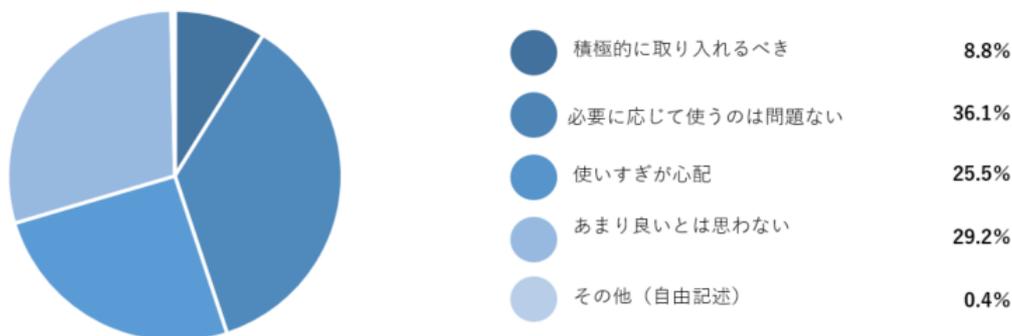
「調べもの(知識や情報の検索)」 (30.7%)

「レポート・作文・小論文の作成補助」 (14.9%)

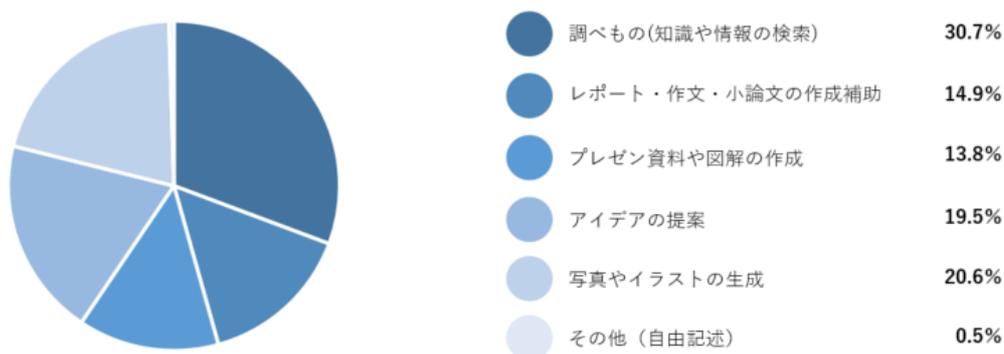
「プレゼン資料や図解の作成」 (13.8%)

となり、調べものにAIを活用する人の割合が多く、レポートやプレゼン資料の作成などAI活用をより応用的に使用できている人は、現状は少ないことが判明。

学業にAIを活用することについてどう思いますか？



学業においてAIを使う／使いたいと思う場面を教えてください。



3. 学業におけるAI活用のメリット・デメリットに対する意見としては、デメリットの選択肢は意見が別れるなど懸念点が散見しており、今度の学業におけるAI活用方法を考える必要がある結果となった。

「学業にAIを活用するメリットはなんだと思いますか？（複数選択可）」

という質問に対しては、上位は

「情報を探す力」（30.5%）

「特に伸びるとは思わない」（24.3%）

となり、情報収集能力が伸びるという回答が約3割ではあったものの

「特に伸びるとは思わない」という意見も多い結果となった。

また「学業にAIを活用するデメリットはなんだと思いますか？」という質問に対しては、

「自分で考える力がなくなる」（29.5%）

「誤った情報を信じてしまう可能性がある」（23.8%）

「書く力・表現力が育たなくなる」（23.7%）

「AIを使う/使わないで学力格差が広がる」（11.1%）

「特にデメリットは感じない」（11.5%）

となり、「特にデメリットは感じない」という人は約1割と少なく、その他意見が別れる結果となった。

「考える力の低下」や「情報の正確性の判断」など懸念する点は多くあるようで、今後、学業におけるAI活用方法を考える必要があると感じる結果となった。

学業にAIを活用するメリットはなんだと思いますか？



学業にAIを活用するデメリットはなんだと思いますか？



4. 学業におけるAI活用が普及することで、特に評価や重視される項目が変化するという意見が多いだけでなく、「教育格差の低減」への貢献を期待する意見が多いことが判明した。

「AIの導入が進んだ場合、学業にどのような影響があると思いますか？」

という質問に対しては、

「学習のペースや方法が多様化し、選択肢が増える」 (18.3%)

「学業における評価基準が変わる」 (19.7%)

「従来の’ ’ 暗記’ ’ 型の学習が薄れ、思考や問題解決力が重視される」 (19.5%)

となり、意見は別れる結果となったものの、評価基準や重視される項目など、学業にAIを活用することで「変化」が生じると感じている人が多いことが判明した。

また「今後、教育現場でAIがどのように活用されていくと良いと思いますか？（複数選択可）」

という質問に対しては、

「生徒一人ひとりに合った個別指導の支援」 (15.4%)

「英語・プログラミングなど実用スキルの練習」 (13.1%)

「特別支援教育など、個別ニーズへの対応」 (10.9%)

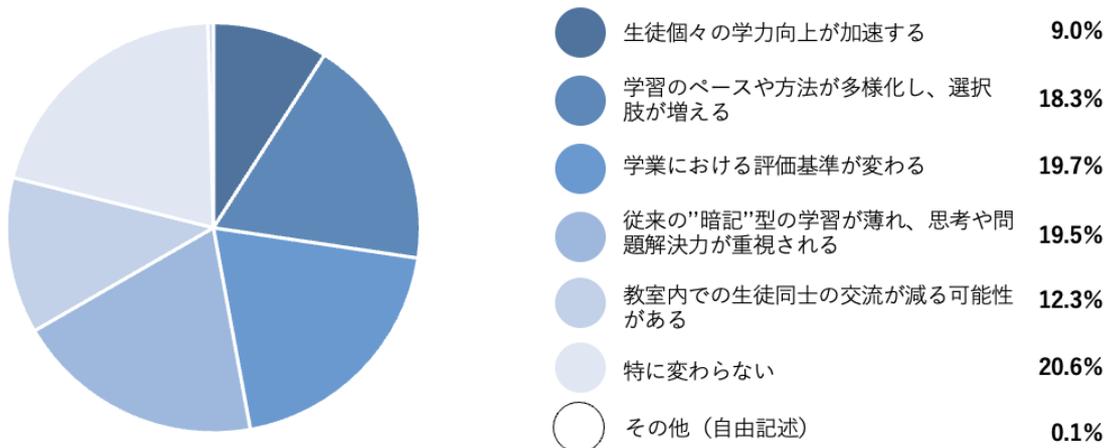
「教育のデジタル格差をなくすための補助」 (14.3%)

「教師の業務負担の軽減（採点、資料作成など）」 (15.3%)

「より高度な学習サポート」 (14.3%)

となり、個別指導の強化やより高度な学習の提供など、教育発展への貢献を期待する意見はもちろん「特別支援教育など、個別ニーズへの対応」「教育のデジタル格差をなくすための補助」など、学業におけるAI活用は「教育格差の低減」への貢献を期待する声も多いことが判明した。今後の学業におけるAI活用に関して、懸念する意見も多い一方で、使い方次第では「期待」の意見も多いため、今一度AI活用方法を考える必要があるのではないだろうか。

AIの導入が進んだ場合、学業にどのような影響があると思いますか？



今後、教育現場でAIがどのように活用されていくと良いと思いますか？

